

## 平成21年度 京築支部研修会の活動報告

京築支部 古賀丈士

京築支部では、12月9日（水）に福錐会（福岡県地元地質業者の団体）から講師をお招きし、地質研修会を行いました。県および市町職員合わせて17名の方に参加していただきました。

研修会は「地質リスク 地形・地質の大切さ」と題し「京築管内の地質」「失敗から学ぶこと（施工時に起こりえるトラブル）」についてスライドを用いて説明していただきました。

京築管内の地質は主に結晶片岩地帯、花崗岩地帯、新第三紀火山岩類地帯、第四紀未固結堆積物地帯に分けられます。主な地質の特徴として結晶片岩は新鮮部での岩片は硬質であるが、風化により急激に岩質が劣化しやすいため、切土法面では岩質を過大評価することがあり、法面変状にいたるケースが多いとのことでした。管内広域に分布している白亜紀花崗岩は新鮮部は硬質塊状岩盤だが強風化部は砂～粘土質砂状の土（いわゆるマサ）であり、この中に硬質岩塊（風化残礫）が分布することがある。堅岩線の判定をボーリング等で行う場合、2～3mの確認では風化残礫の可能性があるため4～5m確認したほうが良いとのことでした。

次に施工時に起こりえるトラブルとして「山間部での道路改良」「橋梁下部工」などを事例に説明していただきました。切土を行う場合どの部分が崩壊するかはコンターを見れば予想がつくそうです。設計、地質調査を行う場合の注意点として施工箇所のみならず広い範囲の地形を見て計画を行うことが大事とのことでした。

また、土質のサンプルを持ってきていただき、写真でしかあまり見ない土質を実際に見て触れられたことは貴重な体験になりました。質疑応答の時間では実際に現場で起こった地盤改良工法の問題について議論がなされました。

以上、平成21年度京築支部研修会の報告でした。忙しい中、福錐会の講師の方、ありがとうございました。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。

## 支部活動状況



講習会の状況



講習会の状況



講習会の状況